

PRAEVIDENTIA DAILY (5月19日)

昨日までの世界：ポンドの自律反発が続く

先週金曜は、材料が少ない中で、BoE インフレ報告発表後に下落し過ぎてきたポンドの自律反発が小幅ながら継続したほか、逆に週半ばにかけて上昇していたNZドルの反落が続いた。この間、ドル/円相場は、米長期債利回りがNY時間引けにかけての米株価上昇もあって持ち直したにも拘らず、101円台半ばで横ばい圏内の動きとなった。米経済指標はまちまちで、住宅着工、建設許可件数は各々107.2万件、108.0万件でいずれも前月および市場予想を上回ったが、その後発表された5月ミシガン大消費者信頼感速報値が81.8と前月および市場予想を下回り、両者が概ね相殺し合うかたちとなった。

ユーロ関連では、先週木曜からギリシャで18日の統一地方選および22-25日の欧州議会選において、かつてギリシャ救済の条件だった財政再建を否定した急進左派(SYRIZA)の支持率上昇への懸念に加えて、ギリシャ政府が海外投資家のギリシャ国債に対してキャピタルゲイン課税を行うとの懸念も高まったことからギリシャ国債を始めイタリア、スペイン国債の利回りも大きく上昇、ユーロの重石となっている(下図を参照)。ギリシャ政府は2014年以降についてはキャピタルゲイン課税を行わない旨発表し一旦利回りが低下する局面もみられたが、ギリシャ統一地方選と欧州議会選への懸念は残ることから、当面不安定な状況が続くとみられる。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.01	+0.01	+0.00	+0.04	+0.03	-0.01	+0.4	-1.4	+0.5	+0.6
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.00	+0.01	+0.01	-0.01	+0.02	+0.03	+0.0	+0.4	+0.6	-0.08
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.03	+0.04	+0.01	+0.01	+0.04	+0.03	+0.2	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.0	-0.02	-0.01	+0.01	-0.08	-0.05	+0.03	+0.4	+0.1	-0.4	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	-0.02	-0.02	+0.01	-0.05	-0.02	+0.03	+0.4	+0.1	-0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	+0.01	+0.01	+0.00	+0.02	+0.03	+0.01	+0.4	+0.5	-0.4	

(注)為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.4	-0.02	-0.02	+0.00	-0.08	-0.10	-0.02	-0.0	-0.7	+2.0	+2.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.5	-0.02	-0.04	-0.02	-0.02	-0.13	-0.10	-0.7	-0.0	+2.3	+0.20
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.0	+0.00	-0.02	-0.02	-0.00	-0.11	-0.10	+0.3	-0.0	+0.8	+0.4
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.2	+0.02	+0.00	-0.02	+0.10	+0.00	-0.10	+0.3	-0.0	+0.8	+0.4
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	-0.05	-0.08	-0.02	-0.02	-0.12	-0.10	+0.6	-0.0		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.3	-0.00	-0.02	-0.02	-0.00	-0.10	-0.10	+0.3	-0.0	+2.0	+0.4

(注)為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ギリシャは再び悲劇の主人公になれるか

きょうの注目通貨：EUR↓

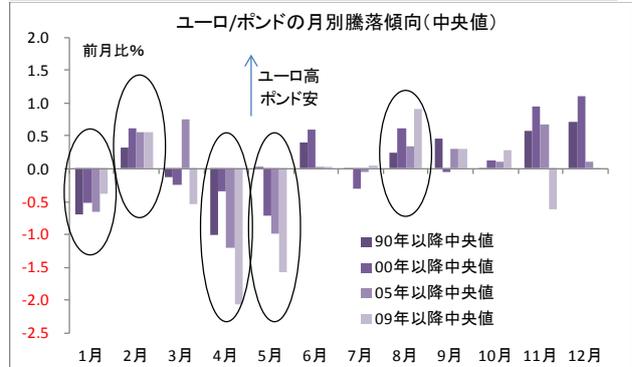
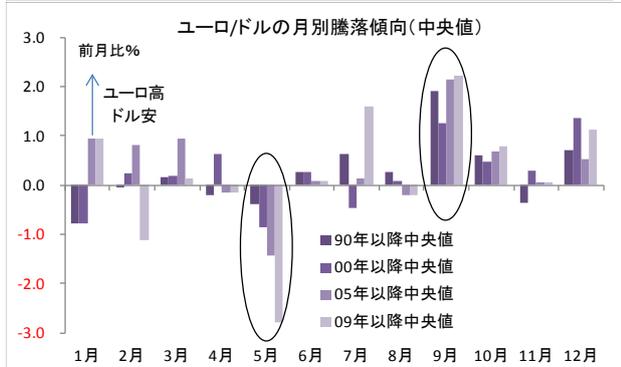
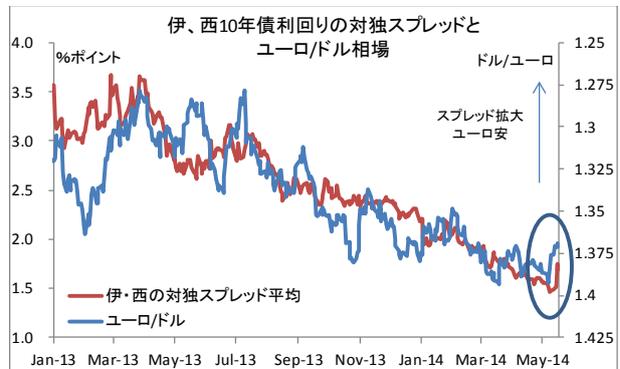
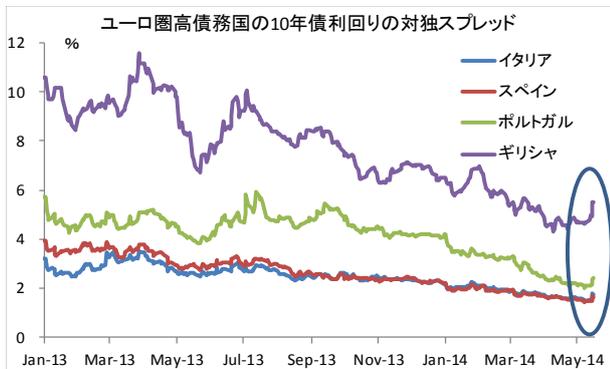
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
英 5月ライトムーブ住宅価格・前年比	8:01	+7.3%		
本邦 3月機械受注・前年比	8:50	+10.8%	+4.3%	
Weidmann 独連銀総裁発言	16:00			タカ派
Mersch・ECB 理事発言	17:00			
Coeure・ECB 理事発言	18:30			
Fisher ダラス連銀総裁発言、 Williams サンフランシスコ連銀総裁発言	1:10			ややタカ派、投票権あり ややハト派、投票権なし

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日も材料が少ない中、18日実施のギリシャ統一地方選の結果で Samaras 首相率いる新民主主義党 (ND) 主導の連立与党 (国会では 300 議席中 152 議席とぎりぎり過半数) が勝利を収められればユーロは持ち直す可能性があるものの、事前の世論調査 (欧州議会での投票に関するものだが) で現在支持率が一位に躍り出ている、財政緊縮に否定的な急進左派連合 (SYRIZA) が勝利を収める可能性が高く、25日の欧州議会に向けて懸念が強まりユーロ売り圧力になるとみられる。他方、ECB 高官発言ではタカ派で知られる Weidmann ドイツ連銀総裁が次回 6月理事会での緩和措置決定に肯定的な発言を行えばユーロに対する下押し圧力を強めるが、こちらは逆に 6月の決定に関して前向きな発言をしないリスクが残っている。

ユーロは5月入り後既に対ドルで 1.3%、対ポンドで 0.9%下落しているが、過去のパターンをみるとユーロは対ドル、対ポンドで 5月に下落傾向が強く、09年以降の中央値では各々-2.8%、-1.6%となっており、ECB 利下げ期待やギリシャ懸念が持続すれば、ユーロは続落する可能性がある (下図を参照)。

ドル/円は依然として 2月以降の 102円を中心としたレンジだが、もしギリシャ問題がリスクとして前面に出てきたり、同時に週末のウクライナ大統領選に絡む地政学リスクが高まるようだと、米国債やドイツ国債利回りの低下主導で、ユーロ/円と共にドル/円が 101円割れを試す可能性もあるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641